

補足説明資料

1 支援する資金の使途について

大学発ベンチャーの起業の準備のための活動に必要な経費に支出が可能。

想定しているビジネスモデルの検証を進めるために必要となる裏付けデータの取得や、試作品の製作、想定顧客へのヒアリング等を進めるための旅費、専門家からのアドバイスを獲得するための謝金、などに支出が可能（以下を参照）。

- a. 物品費：試作品の製作やデータ取得などに必要となる設備・備品・消耗品等を購入するための経費
- b. 旅費：研究代表者および計画書記載の研究参加者等が本プログラム実行のために必要となる旅費
- c. 謝金：起業検討に直接必要な専門的知識の提供を受けるための支出等
- d. その他：起業活動を実施するための必要となる上記以外の経費

使途については別添申請書の“7本研究開発課題の推進に必要な経費”に記載している例や注意を参考にしてください。ご不明な点は、国際産学連携本部にご相談ください。

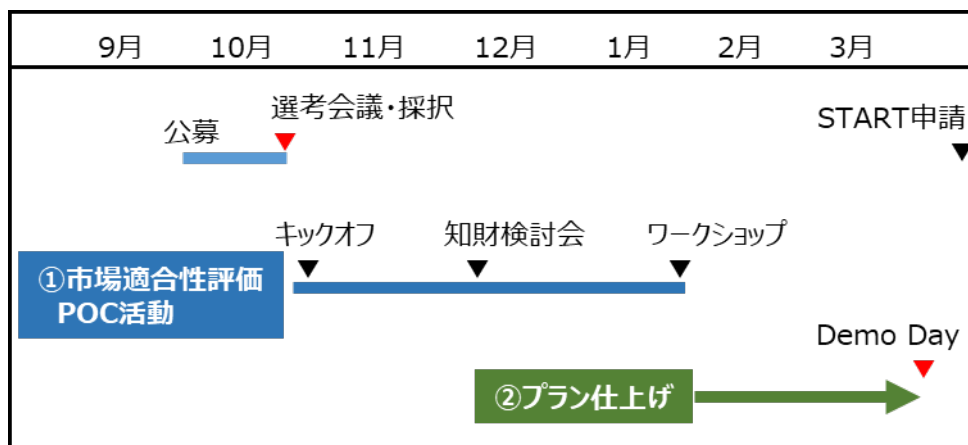
2 研究開発の成果の報告等

- (1) 各チームの研究代表者は、想定顧客ヒアリングを含めた試作評価やビジネスモデルの検証をメンターの助言を得ながら実施し、その結果を国際産学連携本部が主催するワークショップにおいて発表すること。
- (2) 各チームの研究代表者は、国際産学連携本部が主催する知財検討会に参加し、特許等の知的財産の強化を推進すること。
- (3) Demo Day*に参加して発表するものとし、研究代表者は次年度初めに、その発表会における発表資料、討論内容を含めた成果報告書を国際産学連携本部長あてに提出する。

*Demo Day：

起業ビジョンとともにビジネスプランを大学発新産業創出プログラム（START）の事業プロモーターやベンチャーキャピタリスト等にプレゼンテーションし、次の事業化ステージにつなげることを目指す発表会。

3 採択後のスケジュール



令和2年度 SCORE大学推進型 起業活動支援プログラム スケジュール

上図に示すスケジュールに従って大学発ベンチャーの起業に向けた活動を進める。すなわち、研究開発課題チームの活動はメンターの助言を得ながら進め、①市場適合性評価POC活動（試作品などを用いた市場ニーズの検証）と、②Demo Dayでの最終プレゼンテーションにむけたプラン仕上げの2つのフェーズを推進する。

①市場適合性評価POC活動

研究開発課題チームは各チームに配置されたメンターの助言を得ながら、ビジネスモデルのブラッシュアップ、試作品などの製作と評価、想定顧客へのヒアリング、WEBベースのプラットフォームを活用したグローバルなニーズ評価、などを進めて市場ニーズと起業シーズのマッチングを行い、ビジネスプランを構築する。

- ・キックオフ(10月)：メンターマッチング、活動計画/経費計画策定、ゴール設定を行う。
- ・知財検討会(11月予定)：知財戦略策定とアイデア創出により知財強化を実施する。
- ・ワークショップ(令和3年1月予定)：事業化に向けてのビジネスのプランニングの発表を行う。

②プラン仕上げ(Demo Dayにむけて)

ワークショップでの結果をうけて、メンターとともにビジネスプランの仕上げ、Demo Day(令和3年3月中旬予定)に向けた発表準備を行う。